

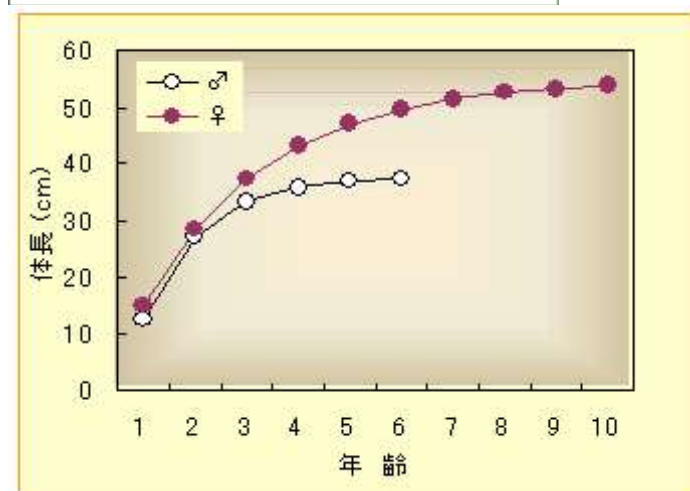
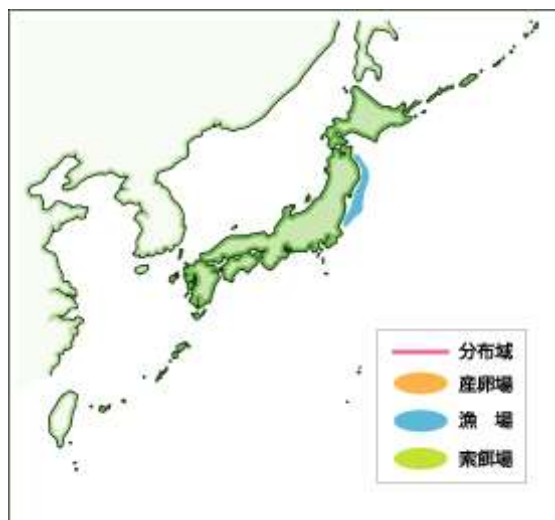
サメガレイ *Clidoderma asperrimum*

太平洋北系群 担当：東北区水産研究所



生物学的特性

- 寿命：雄で9歳、雌で13歳
- 成熟開始年齢：雄で2歳（一部）、3歳（完全）、雌で3歳（一部）、4歳（完全）
- 産卵期・産卵場：1～2月、東北全域の水深600～900mの深海域
- 索餌期・索餌場：周年
- 食性：クモヒトデ類
- 捕食者：不明

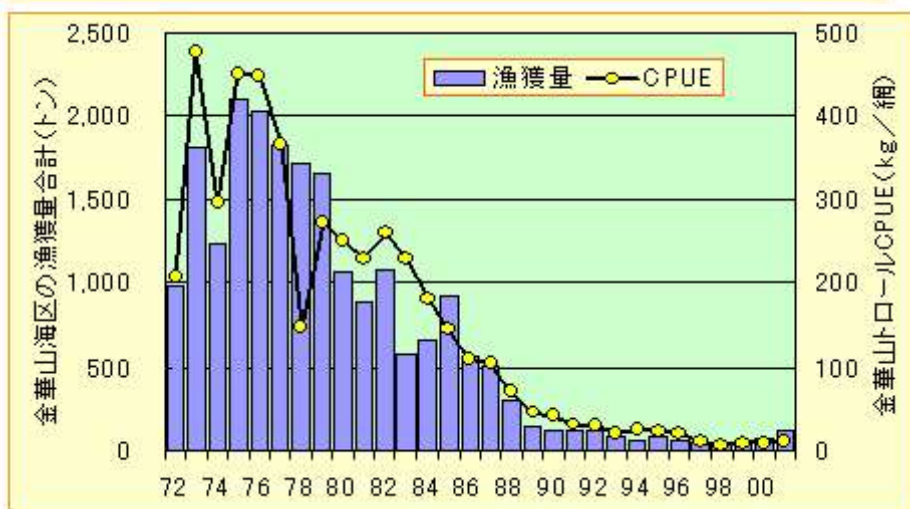
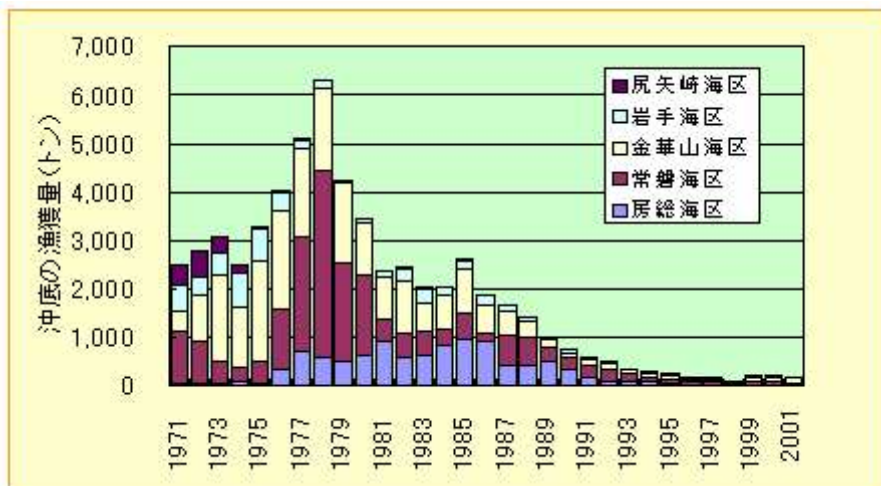


漁業の特徴

沖合底びき網漁業による漁獲がほとんどである。沖合底びき網漁業の漁期は禁漁期を除く9～6月の周年であるが、もっともサメガレイを漁獲している宮城県では、漁期が産卵期前後に集中している。

漁獲の動向

最も漁獲が多い沖合底びき網漁業の漁獲量をみると、漁獲量は1978年の6千3百トン进行ピークに減少を続け、1998年には過去最低の108トンを記録した。その後、やや増加したものの、2001年には185トン、全漁業種を含めても219トンの漁獲量にとどまっている。

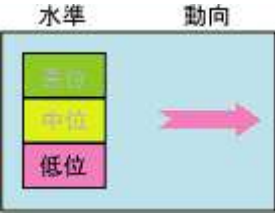


資源評価法

東北海域ではサメガレイの分布範囲をカバーした海域で底魚類の資源量調査を実施しているが、本調査ではサメガレイの採集個体数は少なく、面積－密度法で資源量を推定することは不可能な状況にある。今後、主要港の漁獲実態を把握するとともに、生物特性の解明を進める必要がある。このように、サメガレイの場合、現状では漁獲量とCPUEしか使えないため、それらの動向から資源の評価を行った。

資源状態

サメガレイの漁獲量は少なく、資源量は低い水準にあると考えられる。サメガレイの主漁場である金華山・常磐・房総海区ではCPUEは1998年に比べて2000年にはやや高い値を示しているが、全ての海区でCPUEは長期的には低下傾向、短期的には横ばい傾向を示しており、近年の資源動向は横ばいと推測される。資源評価調査では資源量把握のためのデータは十分には得られていない。宮城県が行ったサメガレイの資源診断（佐伯2001）によれば、サメガレイでは産卵量の不足が特に問題であり、資源量が極端に減少しているサメガレイ資源の管理方策として、当面は年間の漁獲が集中する産卵期および産卵後の漁獲を控えるべきであると指摘されている。



管理方策

産卵親魚の保護が管理方策として重要と考えられる。また、漁獲物の中心が産卵親魚で占められることから、漁獲量を抑えることにより産卵親魚が保護できると考えられる。さらに、サメガレイ資源は低水準、横ばい傾向にあるため、漁獲を控えて現状よりも資源量を増加させることを管理目標とし、沖底の漁獲量の変化率および安全率0.8を用いてABCを算定した。

	管理基準	A B C (トン)	漁獲割合	F 値
A B C limit	0.85 Ccurrent	190	-	-
A B C target	0.8 A B C limit	150	-	-

ABCは10トン未満を四捨五入した値

資源評価のまとめ

- 漁獲量は少なく、CPUEは横ばいで推移
- 漁獲が産卵親魚に集中している
- 現状の漁獲水準では資源の回復は見込めない

管理方策のまとめ

- 漁獲が集中する産卵期前後の漁獲規制が必要